

## 1.10 大鹿村中央構造線博物館・なかひら農園の見学（社会分野）

### (1) 研究の概要

平成24年度地歴・公民科 SSH 講座の名称で1・2年生希望者対象に大鹿村中央構造線博物館・農業法人なかひら農場の見学会を実施した。

### (2) 研究開発の経緯

平成20年度は第1次産業（岐阜県畜産研究所）で SSH 講座を実施した。21年度は第2次産業（へきなんたんトピア・新日本製鐵名古屋製鐵所）で見学場所を選定した。22年度は再び第1次産業（中央構造線博物館・なかひら農場）で実施した。23年度は歴史的建造物（熊川宿・藤樹書院）で実施した。本年度は過去4回の講座の中で最も好評であった講座（中央構造線博物館・なかひら農場）を実施することとなった。

### (3) 仮説（ねらい、目標）

ア 中央構造線博物館の見学を通して、地震国日本の過去・現在・未来を考える契機が養成される。さらに自然地理学に興味を抱かせる。

イ 農業法人なかひら農場の見学を通して、日本農業の現状とりんご農家の苦労を理解し、日本の農業の経営上の問題点を考えさせる。

ウ 見学を通して、将来の研究・進路選択の一助となれば良い。

### (4) 研究の方法および内容

ア 対象生徒 1・2年生の希望者 25名 本校教員 5名

イ 実施日程 平成24年10月20日（土）に実施



施設見学 大鹿村中央構造線博物館

ウ 実施場所 大鹿村中央構造線博物館 長野県下伊那郡大鹿村大河原988  
農業法人なかひら農場 長野県下伊那郡松川町大島3251

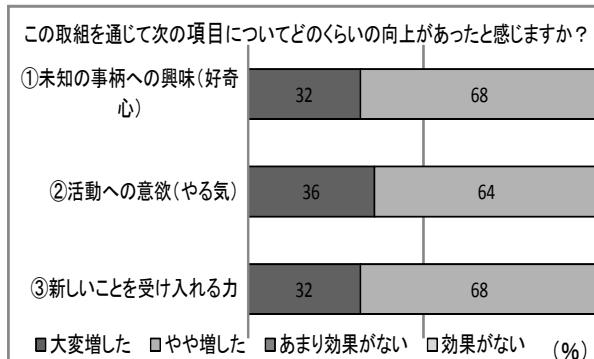
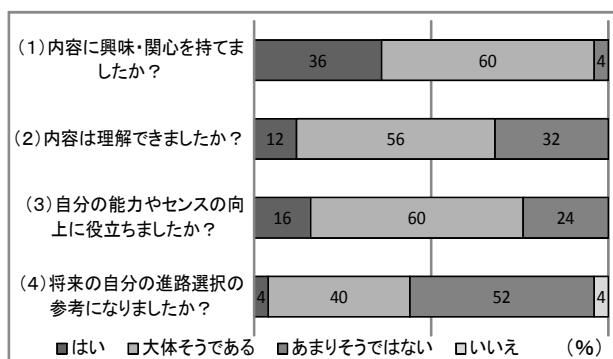
### エ 実施内容

- ・博物館にて学芸員 河本 和朗氏による概要説明・博物館施設見学
- ・農場にて農場専務 中平 孝雄氏による概要説明・農園・ジュース工場見学

### (5) 検証（成果と反省）

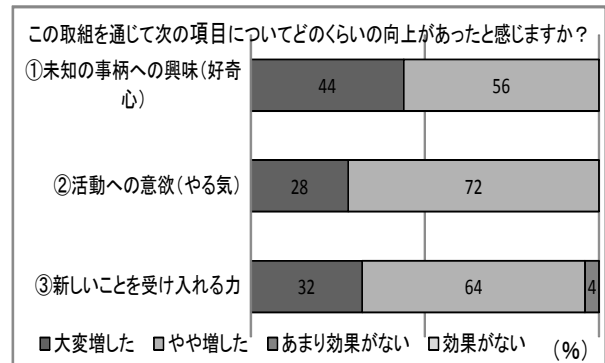
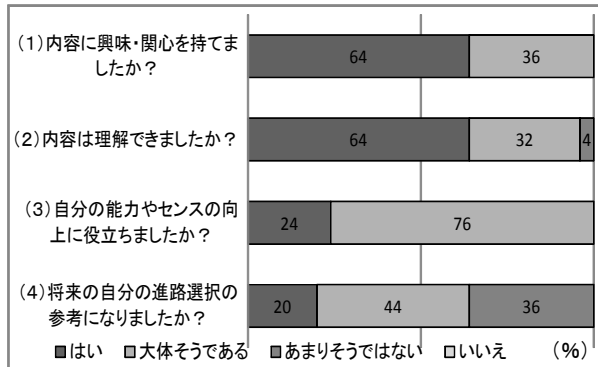
#### ア 事後のアンケートの結果

・大鹿村中央構造線博物館



往路のバス内で印刷資料を用いて30分程プレートテクトニクス理論についての講義を実施したが、2年生地理選択者以外の生徒は内容理解に至らず中央構造線の理解は32%の生徒ができなかった。進路選択の参考については56%の生徒が否定的反応を示した。地震大国日本の一例としての構造線に好奇心・興味を抱いた生徒は多かった。

・農業法人なかひら農場



なかひら農場についての内容理解は96%の生徒が理解できた。64%の生徒が進路選択の参考になったと答えた。りんご農家経営者の生の声に好奇心・興味が涵養されたと思われる。

イ 生徒の感想から

- ・中央構造線が九州まで続いていると聞いてとても驚いた。地学の分野では星の分野しか興味がなかったけど、地層についても興味をもつことができた。
- ・中央構造線については今日初めて詳しく知ったが、とてもおもしろいと思った。プレートの動きによって本来なら隣どうしになるはずのない岩石が隣に存在するという状況が起こるなんてすごいと思った。
- ・中央構造線という語句自体は授業で習っていたので知っていたが、この講座で実際に構造線が分断する状況を岩石標本・模型・風景など五感を通じて触れることができた。単なる知識だった中央構造線を深く掘り下げることができた。
- ・長野県は果実の宝庫だと改めて思った。専務の方が仰っていた「農家は作るよりも流通の方が大変だ。」という言葉はビジネスの大変さを感じさせるもので、今の時代何をやるにしても経済のシステムに関わらなくてはならないと感じた。
- ・日本の農家の多くが赤字で苦しんでいる中、今日訪れた農場は果実をジュースに加え、インターネットで製品を販売。工夫をして成功している。農業従事者が減少する中努力で生き延びている。
- ・りんごの木になっているりんごの数が想像していたより多くて驚いた。改めて自分が農業と関係のない生活を送っているのだと思った。周辺の農家の経営が赤字と聞いて TPP に関心を持つようになった。

ウ 今後の実施に向けて

- ・中央構造線博物館の見学を通じて地震大国日本の現状の理解向上はほぼ達成できた。文系志望の生徒参加が多かったため、将来の進路選択の参考にはならなかった。
- ・農場の見学を通じてりんご農家の苦勞の理解向上は達成できた。栽培の苦勞より、流通の苦勞が大きいことに対する反応は非常に大きかった。TPP に興味を持った生徒も多数生まれ、社会問題に対する問題意識向上にも繋がった。